

大槌町教育委員会だより



櫛の梢から

こずえ
けやき



児童生徒、保護者・ご家族の皆さん、 困ったときにはご相談ください

新年度がはじまり2カ月が経ちました。順調に学校生活を送っている子どもたちの一方で、学校生活での悩みや困りごとを抱える子どもたちや、心配している保護者の人もいらっしゃるのではないのでしょうか。各学園では、学級担任・副担任の先生をはじめ、教育相談担当、こころのサポートコーディネーター、特別支援教育コーディネーター、管理職の先生など、心強い相談先となる先生方がサポートし、教育委員会では専門職である教育相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーがいます。お気軽にご相談ください。また、対面での相談に抵抗を感じる場合には、ぜひ「教育なやみ相談電話」にお電話ください。

【児童生徒のみなさんへ】

勉強がよくわからない…
部活動やクラスで先輩や友達とうまくいかない…
学校に行きたくない… 親と意見が合わない… など
誰にも相談できない不安や悩みがあったら、ひとりで悩まず相談してみませんか？
みなさんのかかえている悩みを解決へ向けてサポートします。

【保護者・ご家族のみなさんへ】

いじめや不登校に限らず、お子さまの教育に関わる相談を受け付けています。お気軽にご相談ください。

【教育なやみ相談電話】

なやむな
Tel 0193-42-7867

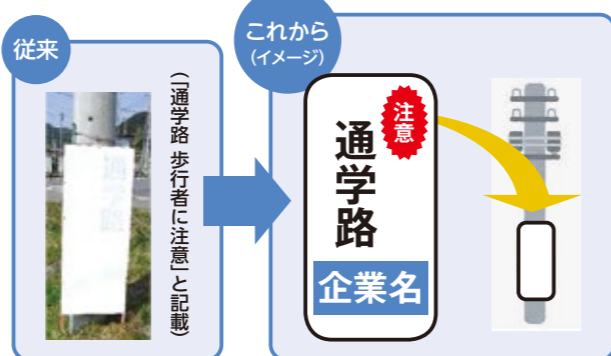
(受付：平日8:30～17:00)

※相談内容の秘密は守ります。
※相談内容によっては、直接お会いしてお話を伺うこともできます。
・夜間（17:00以降）、土曜日、日曜日、祝祭日などは留守番電話にて相談をお受けします。後日内容を確認しますので、留守番電話にメッセージを残してください。

子どもたちの安全確保のために、 地域貢献型広告(看板)の sponsor を募集します

震災後、子どもたちの通学の安全確保のために町内各地の通学路に設置した道路看板に、経年劣化が見られるようになりました。子どもたちの安全を守るためにドライバーへ注意喚起を図る重要な役割を果たす看板ですが、今後の維持管理などを考え、図のような電柱看板への移行を検討しています。これは、スポンサーとなる企業などから広告料や看板作成料をいただき、企業などの広告と併せて、交通安全のための注意・啓発などを町内の電柱に掲載するものです。掲載料として初年度 30,000 円程度、次年度以降は 12,000 円程度のご負担をいただきます。

つきましては、本事業にご協力いただける、ご興味のある企業・団体は、右記の連絡先までお問い合わせください。子どもたちがこれからも安全に通学し、楽しく豊かな学校生活を送ることができるように、ぜひご協力をお願いします。



地域貢献型広告(看板)

【お問合せ先】
教育委員会学務課
Tel 0193-42-6100
(右記 QR コードからもお問合せ可)



大槌高校だより

大槌高校の学校生活や日々の様子を町民の皆さんにお伝えします！



大槌高校のnoteでも行事などの様子を発信しています！

マイプロジェクト発表会を開催しました！

4月29日(土)に大槌高校の公開授業が行われ、マイプロジェクトの発表会を開催しました。昨年度の岩手県大会に出場した2・3年生の生徒13人が、全校生徒や来場した保護者の前でプレゼンテーションを行いました。マイプロジェクトとは自分自身でテーマを設定し、情報収集や整理・分析だけで終わらず、実社会と関わりながらアクションを起こし、学びにつなげていく探究学習です。探究学習を経て、自分自身に起きた変化についてもふりかえり、次の探究や生き方や在り方につなげていきます。

発表を聞いた生徒からは「地域活動に積極的に取り組んでいて尊敬した」や、「困難なことがあってもそれを解決しようと頑張ってきた先輩の発表を聞いて、私も意欲的にマイプロに取り組みたいと思った」という感想がありました。

発表の後は、全校生徒が学年横断のグループをつくり、3年生の先輩が後輩に対して、自らのマイプロジェクトの経験をもとにしたアドバイスをっていました。



輝く大高生



4月28日(金)に行われた高総体釜石気仙地区予選(バドミントンダブルス)を突破し、県大会出場を決めた東梅芳樹(3年生)さん。2年生のときに1年後の高総体で県大会出場を目標としていたこともあり、「バドミントンのメンタルについて」をテーマにマイプロジェクトを行いました。自分のマイプロジェクトが今回の結果につながったと話す東梅さんにインタビューしました。

Q. マイプロジェクトを通して身に付いた力は何ですか。

県大会に出場するという理想の自分と現実の自分の間に大きな差を感じていました。“どうして理想の自分になれないのか”、“今自分が向き合わなければならない課題は何か”について自分自身を分析し弱点を克服する力が伸びたと思います。

Q. 具体的にどんなアクションを起こしましたか？

部活動の顧問でもある近藤先生に相談して協力していただき、理想の選手とする日本代表の桃田賢斗選手の写真や動画と、自分のプレーを何度も何度も比較し、近づけるよう実践しました。また、大槌高校の卒業生である先輩に試合中のメンタル面についてヒアリングも行いました。体の軸を意識するようになり、フットワークが安定しました。しかし、そこにいきつくまでに上手いできないことがたくさんありました。

Q. 上手いできないとき、どうやって乗り越えましたか？

先生や先輩など周りに相談し、“課題”を明確にしました。その課題を解決するために繰り返しアクションを起こすことで乗り越えました。周りの人と関わりながらマイプロジェクトを継続することで、自分自身と向き合うことができたと感じています。バドミントンが大好きだという気持ちがずっと根底にあったことも継続できた理由です！

